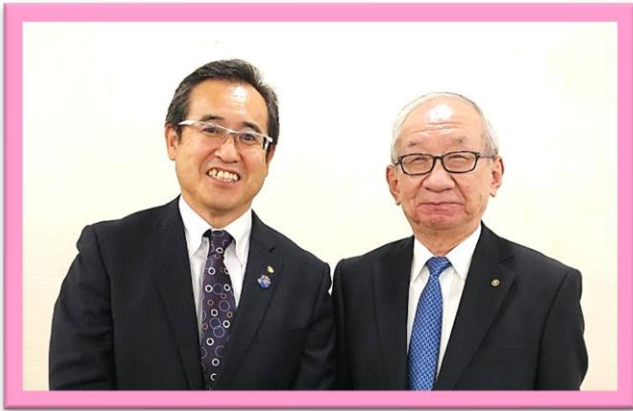




草加松原ロータリークラブ

世界は一つ みんなの人生を豊かにするために

2021-22年度 国際ロータリーのテーマ 奉仕しようみんなの人生を豊かにするために



第456回 例会 12月7日 今様本陣

＊＊本日のプログラム＊＊

開会点鐘	幹事報告
ロータリーソング	委員会報告
四つのテスト	SAA報告
お客様紹介	出席報告
会長挨拶	閉会点鐘
クラブ総会	誕生祝
免疫力UP運動	講師 柴田恵子様

11月30日の例会記録

- ◆ お客様 元ロータリー財団奨学生
ヴァイオリニスト 平澤 仁様
牛山由美子様 川井千恵子様
- ◆ 会長あいさつ 二階堂祐司会長

皆さんこんばんは、コロナウイルス感染低値安定が続いていたのですが、ここの所にきてまた新しい株、オミクロン株、嫌な感じがして、少し暗い感じがしているのですけれども12月14日のクリスマス例会も控えておりますので拡大しなければよいと心配しております。

先週の土曜日、10種年の記念公演「河の童」ご参加下さった皆さんありがとうございました。草加松原ロータリークラブの皆様へと言うことで「デフ・パペットシアター ひとみさん」からお礼として出演者のサイン入りの色紙をいただきました。劇をご覧になられた方はどう感じられたかわかりませんが、私は子ども向けの楽しい劇だと思っていましたが、結構シビアな内容でよくわからない！色々な解釈ができる。

私の頭の中では、プロローグと最後が上手く繋がっていないのです。繋がってはいるのですが、これで終わりかな？と言う感じでした。見ていない方には何言っているのか

わからないと思うのですが、解釈が非常に難しく、色々な教訓をもとにこうなってはいけないよ！みんな仲良くしなければダメですよ！と訴えているのだと

思うのですけど、これを見た子ども達はどのように感じたのだろう！障がいを持ったお子さんのお母さん達は、あれを見てどのように感じたのか！製作者の意図とすることが上手く伝わったかが心配な感じで、最後までしっかりと色々なことを考えさせる劇でした。子ども達は楽しめたのか、人形自体の表情は全くない、操っている人の表情を見て判断をしないではいけません！なかなか難しい劇だったように感じます。他の方の感想もぜひ伺ってみたいというところが正直な感想です。

本日は1986年の財団奨学生でヴァイオリニストの平澤 仁様をお迎えして、卓話と演奏非常に楽しみにしています。皆さんも最後まで楽しんでいただきたいと思います。会長挨拶は以上です。ありがとうございました。

幹事報告 佐々木一男幹事

皆さんこんばんは、幹事報告いたします。お手元に地区大会のお礼と言う事で松本ガバナーから扇子とようかんが届いています。参加された方ありがとうございました。お礼の品は全員に届いています。



国際ロータリー第2770地区第9グループ

草加松原ロータリークラブ

会 長：二階堂祐司
幹 事：佐々木一男

例会日：毎週火曜日 19:00～20:00
例会場：草加市文化会館
事務局：草加市青柳 8-56-21
TEL/FAX 048-967-5315
PC : sokamatsubara@abelia.ocn.ne.jp



卓話 ヴァイオリンと私の人生ロータリーとの出会い

卓話者ご紹介

牛山信康ロータリー財団部門委員長

皆さんこんばんは、今日は元国際ロータリー第 27770 地区財団奨学生の平澤 仁さんをお迎えしての卓話となりました。平澤さんは 1986 年に財団奨学生として東京芸術大学を卒業した後、世界で名門中の名門のジュリアード音楽院で学ばれ、その後に東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターをお勤めになり、今はソロ活動をされているとのことでした。

ロータリー財団奨学生の仕組みは、ロータリー財団のプログラムの一つです。私たちが年間 1 人 200 ドル、ポロ撲滅で 50 ドル、ベネファクター-VTT・世界平和ペロー・地区補助金・グローバル補助金など様々なプログラム、ロータリー財団なくしてロータリーの活動はないのかな！と思っています。今日はそのことを十分理解していただき、皆さんの寄付で多くの支援をしていると言う事を理解していただきたいと思います。200 ドルを超えても良いです。以前にお話ししましたが、遺言の中にも書いても良いのだそうです。今日の話を聞いて、これからも益々ロータリー財団を理解して、この寄付に専念していただけたらと思います。最後に演奏をしていただけたと言う事です。携帯はマナーモードをお願い致します。



元ロータリー財団奨学生 ヴァイオリニスト 平澤 仁 様

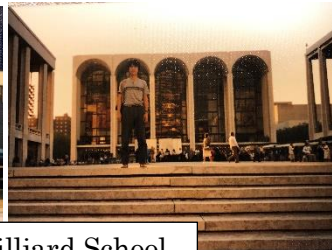
皆様こんばんは、ヴァイオリニストの平澤 仁と申します。よろしくお願い致します。本日は例会にお招きいただきありがとうございます。

私は国際ロータリー第 27770 地区の財団奨学生としてニューヨークのジュリアード音楽院に留学させていただきました。私の人生でこの留学させていただいたと言う事が一番大きな出来事です。そして同時に今の仕事に繋がる出来事ですので、本日は私の生い立ちも含めて留学までの経緯と現在の様子などを、感謝を込めながらお伝えさせていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

1986 年と言う事が紹介されていますので年齢がわかってしまいますが、私は昭和 37 年に長野県松本市に生まれました。幼少から家族ぐるみで埼玉県蓮田市に引っ越してきました。両親は根っからの長野県人で、玄関先で尋ね人があれば、漬物とお茶を出し、30 分・1 時間と平気でしゃべるようなタイプであったり、「信濃の国」という長野県人は必ず歌う唄があるのですが、父親は宴会では必ずうたうような人でした。父親は学校の先生をしており、母親も元教員で長野県人は教育県であることに誇りをもっておりまして、特に母親は当時住んでいた松本市で発祥しました鈴木鎮一先生というヴァイオリニストがいるのですが、その人が作ったスズキメソッドと言うレッスンのシステムがあります。それに影響されて、2 つ上の姉がいるのですが、2 人にヴァイオリンを習わせました。姉は飯田の教室に通っていた事もあるのですが、私が習い始める頃には、教員仲間と東京に行こうと高度成長時代の話ですから東京に出たいという気持ちもあつたらしく昭和 40 年頃に家族で上京しました。父は千住の小学校で教えていましたが、経済事情で住まいは、東京都とはいかず、たまたま親戚が紹介してくれたご縁で埼玉県蓮田に住むようになりました。レッスンは週 1 回池袋に通いまして、それ以外は友達と遊び、蓮田中央小学校、蓮田中学校を卒業しているのですが、当時は造成中の空地もたくさんあり、野球をしたりゴルフのまね事したりのどかに過ごしました。ヴァイオリンの練習は家で母が厳しく言われていたのでもやっていたのですが、勉強は特にしていなくて、ラッキーなことに高校は、姉は音楽高校に行きましたが色々なことがありまして、私は男の子だし、普通高校に行きなさいと言われて普通高校に行くことにしましたが、共学高校が良いと思っていましたが、たまたま浦和高校に入れてしまったので入りました。この時は音楽で身を立ようとは思っていませんでしたが、私が入学するとその年に川越工高から転入してきた先生が私の担任になりまして、前の川越高校で吹奏楽の顧問として関東大会などで部を優勝させていた方で、浦和高校でもやるぞと張り切ってきたようで、入学後すぐに職員室に呼ばれ、ヴァイオリンをやっているのであればコントラバスできるだろうと、無茶苦茶なことを言われました。たまたま中学卒の頃、ロックに目覚めかけていたので、ギターをやりたいとギターを買ってもらえなかったのですが、友達に借りたりして、ヴァイオリンが出来たからではなく、ギターを少しかじっていたのでコントラバスは弾けたのですが、無理やり入れられてしまったのです。その先生はまず部員を増やす。コンクールはある程度的人数がいないと出られませんし、私に対してはなぜかお前を芸大に入れてやるから入れと言い出したのです。しかもその先生は国語の先生なので吹奏楽の指導はしていましたが、全くの素人の指導者で不思議だと思っていました。今も高校の同級生とは縁はないですが、吹奏楽の仲間とはメールで 15 人くらいと取れるようになっているのでそれは有難かったと思っています。実際その先生がいなかったら芸大まで受けて音楽で身を立ようとは思っていませんでした。たまたま共学に行きたかったという思いはあつたので高 3 の時に芸大を受けて落ちたら予備校に行こうと思っていました。浦和高校は浪人率の高い学校で、殆どが予備校に行っていました。高 3 の時は先生も芸大を受けてと言っていたので受けたのですが、運よく入ることが出来ました。当時は芸大の先生にレッスンを受けていましたが、入試の後にギリギリで受かったよと一番下の方で受かったようです。入ってからは大変で、芸大に来るような人は小さい頃から音楽家になりたい！家よりも強力な親御さんに育てられて、音楽高校から来る人が多いです。私は普通高校から行って音楽大学で競争しなくてはいけないと入ってから気が付きて、4 年間はギャップを埋めるだけと言う感じでした。本当は一般大学のようにサークルに入ったりするのに憧れていましたが、芸大生にはそのような人はいなくて、練習・練習と言う感じ 4 年間を過ごして、大学院 1 年生の時にみんなに追いついたというか、音楽家の登竜門になっているのですが、NHK 毎日コンクール今でもテレビで放映していますが、そのコンクールに大学院 1 年生の時に受かりましてその勢いで留学も考えました。

コンクールを受ける直前にアメリカのアспенと言う避暑地があるのですがそこに短期留学をしていますが、そこは両親に負担してもらったのですが、その先実際に学校に入って長期留学は気が引けてしまうのでアспенと言う夏期講習にいる間に音大の先生が集まっていますので自分の学校に来れば奨学金を出しますよとシンシナティに1つ紹介されていました。日本の先生に相談したら、行くなら絶対にジュリアードだと！その先生もジュリアードを出ていた原田先生といいます。とても素晴らしい先生です。ジュリアードに自分を入れるかと心配もありましたし、ニューヨークで資金的な生活ができるのかの心配もありました。色々考えた末に母の知人で蓮田 RC の世話役をしている方にご挨拶に行き、蓮田 RC にはサッカーをしていて足の骨を折った時にお世話になった先生などお世話になっていた方が沢山いらっしゃったので、ぜひ頑張るとお言葉をいただきましてお世話になることになりました。

当時はメールなどありませんからジュリアードに出す書類に国際ロータリーに出す書類と往復2週間かかる時代でしたので大変でした。蓮田から大手町の東京国際郵便局まで締め切りに間に合うようにと言う苦勞を、留学のことを考えると東京国際郵便局を思い出します。その後ニューヨークでオーディションを受けまして受かりジュリアード音楽院に入ることができました。ニューヨークのど真ん中にある学校でした。オーディションを受けに行った時の写真です。中には黒人のガードマンがいて当時は全部のビルにガードマンがいるというのは日本ではあまりないような気がしましたし、怖いような雰囲気がありました。あの時代、ニューヨークの街は、小さな袋に入れて大麻など売ろうとしたり、浮浪者もいっぱいいますし、すれ違うたびに怖いと感じました。五嶋みどりさんと同級生でした。



The Juilliard School

3年前に財団主催で「ポリオ撲滅カウントダウンコンサート」をやらせていただいたのですが、その時にパールマンさんもジュリアード音楽院の大先輩で原田先生と同じ世代のジュリアード出身のヴァイオリニストで、世界最高峰のヴァイオリニスト、まだ現役で75歳くらいだと思います。小さい時にポリオに罹り、ハンディキャップを負いながらずっと座って弾くのです。ヴァイオリンは立って弾く方が良い音が出るのですが、ずっと座って弾いても誰よりも上手い人です。



留学生活に戻りますが、蓮田 RC で私が3人目の奨学生でした。当時は郵便事情ですが、ニューヨークのロータリークラブと連絡はとれていませんでした。

今お手伝いをさせていただいているので、最近の方の話を聞くと出迎えや住むところやホームパーティーなど手厚くしてくれると聞きますが、私の頃は全くである時にロータリークラブに行かなくてはとルーズベルトホテルに出向きました。カウンセラーさんの名前は手紙でわかっていましたので蓮田 RC のバナーを渡しましてニューヨークのバナーをいただきました。その後例会に招かれました。ルーズベルトホテルの大きな部屋ですが映画に出てくるような趣が感じられました。そこには日本からの留学生がいました。彼は今有名なフォードム大学に通っていました。まだ住むところを探していたので、結局山中君と言いますが、彼とルームシェアをすることになりました。



New York Rotary Club 例会

冬の寒さ、ニューヨークは半端ではありません。持って行った服では防寒になりませんでした。ニューヨークは寒いところが私の印象です。1年が経ち学生の日本公演がありました。ヨーロッパに行く年もあるのでラッキーでした。もう1年は両親にお願いしてマスター(修士課程)を取って帰ってくる時に、自分はソリストとしてやりたいと思っていましたが、原田先生から電話がありまして自分で言うのはおこがましいのですが、優秀な若いプレイヤーを自分のオーケストラに入れようと目をつけている方がいて、ジュリアードを卒業して帰って来ること、聞こえが良かったようで、帰国早々東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターをさせていただきました。財団奨学生のおかげでプロのコンサートマスターになれたこと本当に感謝しております。その気持ちはもっと早く皆さんにお伝えしたかったのですが、20年間東京フィルは本当に忙しいオーケストラで学友会のお手伝いは全くできなかったのですが、こちらのクラブも先ほど合併とのお話が出ていましたが、東京フィルハーモニーに20年いて10年経った頃に東京フィルハーモニー交響楽団と新生日本交響楽団が合併したのです。2000人くらい大所帯になりました。新生日本が連れてくる指揮者の方に私が出ていた時に、「あまり平澤さんは私たちが連れてきた指揮者が好きじゃないのかしら」と噂を立てられまして「私たちのこと嫌いなあのでは」となってしまう、それが10年くらい積もってしまい、事務所も両方の方がいて、新生の方に強い方がいて20年経ったときに退団することになりました。皆さんは仲良く発展して行っていただきたいと思います。今はフリーランスで色々な活動させていただいています。フリーランスは厳しいので学校の体育館で引いたりしたこともありますし、有名人と一緒に演奏や地区大会でも演奏させていただいたりもしました。コロナ禍になり音楽家の実情は厳しいです。音楽は空気振動なので空気があるのと同じに、音楽はあるのが当たり前なものだと言う事を皆さんにお伝えしたかったのです。つたない話を聞いていただきありがとうございました。





演奏曲 エルガー作曲 愛の挨拶 他

草加松原 RC10 周年記念公演「河の童」

11月27日(土)中央公民館で公演が開催されました。



今後のプログラム

- 12/14 クリスマス例会 パレスホテル東京
- 12/21 卓話 西れんげ草施設長 今様本陣
- 12/28 休会

11月30日ニコニコBOX

金額	14,000円	累計	198,000円
11月30日 出席報告			
会員総数	35	出席	16
出席免除	8	MU	2
出席適用	27	出席率	66.67

加藤芳隆会員

皆さんこんばんは、3週間くらい前に田川さんから荷物をお預かりしました。合併前の草加RCの荷物だと思います。50年分の資料などが田川さんの所にあつて、段ボール箱10箱分くらいに壺などをお預かりしました。旧草加RCでした皆さんにとっては思い出の品でしょうから、お集まりいただいて、皆さんと一緒に整理をしたいと思ひます。これから寒くなりますので、季節の良い時期になりましたら、折を見て、お声をかけさせていただきますので、その際は、宜しくお願い致します。

- 二階堂 祐司 会長
- 佐々木 一男 幹事
- 牛山 信康 会員
- 加藤 芳隆 会員
- 川井 大輔 会員
- 木村 博行 会員
- 鈴木 努 会員
- 田中 和郎 会員
- 富永 悟 会員
- 長谷部 健一 会員
- 山崎 秀美 会員

11/27(土)の10周年公演「河の童」お疲れ様でした。平澤 仁様本日は卓話と演奏楽しみです。元ロータリー財団奨学生 ヴァイオリニスト平澤 仁様よろしくお祈りします。第2770地区元ロータリー財団奨学生の平澤 仁さんようこそいらっしゃいました。今日は楽しみにしていたので妻と二人で参加しました。平澤 仁さん今日の卓話とヴァイオリン演奏宜しくお祈りします。楽しみにしています。謝 振宇さんは帰国後に1か月間ホテルで自粛生活だそうです。結婚祝ありがとうございました。平澤 仁さんの演奏楽しみです。平澤 仁様ようこそ！ 生演奏楽しみです。芸術の秋からクリスマスの冬の季節になりますね。あっという間の1年ですね。今日は東京フィルハーモニー交響楽団の平澤 仁様ようこそ！ 楽しい音楽ありがとうございました。それとRLIに参加しました。疲れさまでした。平澤さん卓話と演奏楽しみに来ました。元ロータリー財団奨学生の平澤 仁様ようこそ。お越しいただきありがとうございます。卓話楽しみに来ました。ヴァイオリニストの平澤 仁さんようこそ！ 11月28日に第17回草加ミュージックフェスティバルが無事盛大にできました。協力いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。今日で11月は終了し明日からは師走です。27日はRLIⅡに1日中リモート参加し死にました。平澤 仁さんよろしく！！

ニコニコBOX